

## スロイスの講義から：植物学講義とオーデマン植物 図鑑の関係

著者	板垣 英治
雑誌名	北陸医史
巻	27
号	1
ページ	80-85
発行年	2006-01-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/7425">http://hdl.handle.net/2297/7425</a>

## スロイスの講義から

### 植物学講義とオーデマン植物図鑑の関係

金沢市 板垣 英治

金沢医学館で明治四年三月から和蘭ユトレヒト陸軍医学  
校軍医 P. J. A. スロイスにより医学の基礎学科として「植  
物学」の講義が行われた。その講義は藤本純吉により筆記  
されて、講義録として現在金沢市立玉川図書館近世史料館  
に保存されている<sup>①</sup>。一方、金沢大学自然科学系図書館（従  
来、金沢大学医学部記念館内に架蔵されていたが、平成十七年七  
月に新図書館の開館により移管された。）には「*Natuurlijke  
Historie van Nederland. De Flora, Prof. C. A. J. A.  
Oudemans, G. L. Funke, Amsterdam, 1869*」（「医学館」の  
印記がある。）が架蔵されている<sup>②</sup>。本書は「オランダの自然  
史、全十二巻」の中の植物編であり、図譜一冊とその解説  
編三冊よりなっている。その内容は「オランダの野草植物  
図鑑」であり、四六四種の植物の彩色図が掲載されている。  
これまでにこのスロイスの植物学講義についての詳細な調  
査・研究は行われていなかった。

しかし、スロイスの植物学の講義は、夫人（Maria Agnes  
Jansen Hoopman）がその草稿を書いていたとか<sup>③</sup>、この植  
物図鑑は夫人の愛読書であったとか伝えられているが、そ  
れを直接示す資料もなく、いずれもその真偽のほどは明ら  
かではない。それは彼の植物学講義の内容が十分に解析さ  
れていなかったことに由来している。

今回、スロイスの植物学の講義録とオーデマンの植物図  
鑑<sup>④</sup>の内容を比較することにより、スロイスはこの講義のた  
めに、この図鑑をどの様に利用していたかを明らかにする  
ことが出来たので記す。

まず本図鑑が一八六九年にアムステルダムで出版された  
こと、印記は金沢医学館の収蔵印である「医学館」の印が  
捺印されていることから、スロイスがオランダから持って  
来たもので、加賀藩が長崎で購入したものではないと推定  
される。

本図鑑の第一頁の植物図は、キンボウゲ科の植物図で始  
まり、アネモネなどが、その植物の全体図と共に、花の構  
造図、果実図、種子図が描かれている。それぞれの植物に  
は整理番号が付けられ、この番号で解説書の相当する番号  
のところを見ると、その植物の学名およびオランダ名と特  
徴などの説明を検索できる様になっている。さらに、幾つ  
かの植物図の脇には、手書きで「学名」と「オランダ名」

が書き加えられている。例えば、図1のアブラナ科のナス族のものには、一つは、“*Senbiera cledyma*”とあり、もう一つには“*Tesdalina nudicaulis*”とある。両者の学名の筆跡を比較すると、前者は小さな文字であり、後者は丁寧な文字であり、スロイス自身が書いたものと見られることから、前者は夫人の筆跡であると見られる。図譜全体を通して見ると、夫人の書いた学名が殆どで、スロイスの書いたものは多くは無い。この文字については、大正九年（一九二〇）五月二十日にスロイスの子息により、このことが確認されたように証明されている。

“Het was mij een groote Veuje in de bijschriften de handschriften to herkennen van mij Vaer of mijne Moeder. 20, Mei, 1920. H. F. Sluys”

「この植物に書かれた学名の文字は両親の筆跡である」  
（大意）

（本書図譜編の内表紙に彼により記入されている。）

彼は金沢で生まれ、オランダ南米印度艦隊司令官、H. Ms. Hertog Hendrik 号の艦長として横浜を訪問した際に、金沢にも訪れて、金沢医学専門学校で藤本純吉、不破鎖吉、金子治郎らの父親の教え子と再会した。当時の様子は、北国新聞、大正九年五月二十一日号に詳しく記されている。<sup>(5)</sup>

ところで、藤本純吉の筆記した植物学の講義録を見ると、例えば、260番のチョウセンアサガオの項には（図2）、  
「この種の花は白色にして、ろーと状をなし、大なり。  
その実は『ドースフリフト』にして無数の針を有す。是四弁を以被開す。其実中黒色にして腎臓状の種子を有す。花蓋は円柱状にして長く、其端五角に分裂す。是毒草にして薬局に供す。」

・ doosvrucht = box fruit, 広卵形の蒴果の意

とあり、この説明は図2を元に行ったものであることが容易に分かる。この図には、夫人の書き入れた学名 *Datura stramonium* が読み取れる。

次に講義録からキク科植物の部分「第三属複雑花植物キク科」には「第一次族 管花状植物」では、先ずこの族の形態的説明があり、続いて幾つかの植物名が書かれている。  
*Eupatorium*, *Tussilago* = *hoefblad*, *Aster*, *Bellis perennis* = *madeliefje*, *Artemisia absinthium* など九種の名前がある。*Eupatorium* は「是薬局に供する者にして解熱剤なり」とあり、他のものも同様の説明がされている（表1）。*Tussilago* の *hoefblad* はオランダ名であり、和名「フキタンポポ」である。この講義を聞いた生徒は、この学名からでは、どんな植物かは理解は不可能であるが、

オーデマンの図鑑の図と照合することにより、その形態を容易に理解することができる。また、種によっては、金沢の野原のものに似たものが生えていることに気付いたと想像される。

表1の植物名の記載順は講義録の順であり、学名、オランダ名、和名、そしてこの図鑑での整理（掲載）番号を記載した。その結果、講義で引用した植物はこの図鑑の記載順に引用されていることが明らかである。この事実、スロイスはこの図鑑の植物図を記載順に説明していたことを示している。そのために、各植物図に学名、オランダ名を書き加えて居たのであった。図3は引用されたキク科植物の図であり、185番から198番のものを示した。何れも学名の書き入れがあり、さらに幾つかには桃色のマークが付られている。表1の201番からの植物も同様に引用されている。このことは、他の科の植物についても見られる。例えば、豆科植物の場合では、86番の *Ulex europaeus* L. (Doornstruk) から103番の *Lathyrus pratensis* L. (Veld-lathyrus) まだが、唇花状植物（クチビルバナ科植物）では、274番の *Muntha crispa* L. (Munt, 薄荷) から289番 *Marthium vulgare* L. (Malrouve) が引用されている。これらはシン科の植物であり、オルガン、タイム、ハッカなどのハーブが多く含まれている。

以上、スロイスが医学館で行った「植物学」の講義を、オーデマンの植物図鑑と比較し検討を加えた。この講義では、特に「植物分類学」では、多くの薬用植物名を挙げて説明していた。その植物の形態を容易に理解するために、彼はこのオーデマンの「植物図鑑」を使用していたのである。そのために夫人が、解説書からの植物の学名とオランダ名の書き写しを手助けしていたのである。この様にして、スロイスはこの「植物図鑑」を参考資料として使用していた。

今回は、植物の構造学、生理学については触れないが、その内容から判断すると、「夫人が講義の草稿を作った」とする話は無理があると考えられる。それはこの講義の内容のレベルから、若い夫人が書くことは無理と判断されるからである。

## 文献

1. スロイス口述、藤本純吉筆記「植物学」、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。
2. Oudemans, C. A. J. A., "Natuurlijke Historie van Nederland. De Flora," G. L. Funke, Amsterdam, 1869", 金沢大学自然科学系図書館蔵。

3. 金子治郎、「母校の沿革」大正十四年（一九二五）、（東京十全会の講演記録）。
4. 三浦孝次、「加賀藩の秘薬、秘薬の探求とその解明」、加賀藩の秘薬刊行会、（一九六九）。
5. 「スロイス提督来る」、北国新聞（大正九年五月二十日版）、「誕生地の香を嗅いで感慨無量のス提督」（同、二十一日版）、マイクロフィルム、石川県立図書館蔵。
6. 板垣英治、「オーデマン著『オランダの野草図鑑』とスロイスの『植物学』講義、金沢大学資料館日より、No.25, p.2-3, (2005).（金沢市）。



図2. チョウセンアサガオ *Datura stramonium* の図

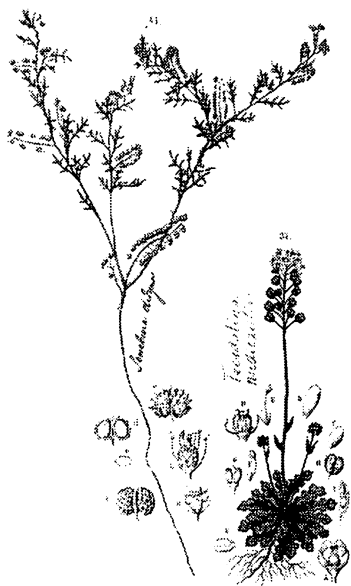


図1. アブラナ科ナスナの仲間の植物図

# 第一次管花状植物、 きく科植物



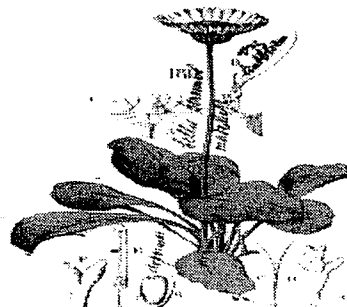
185 *Eupatorium cannabinum* L.  
Boeltjeskruid, ひよどりばな



186 *Tussillago farfara* L.  
klei Hoefblad



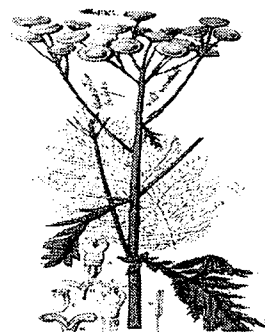
188 *Aster tripolium* L...  
zee-Aster, よめな



189 *Bellis perennis* L.  
Daisy, ひなざく



197 *Artemisia absinthium* L.  
Bijvoet, アルセム



198 *Tanacetum vulgare* L...  
Wormkruid, よもぎざく

図3. スロイスの植物学講義で引用されたキク科植物の図

表 1. 第三族複雑花植物 Zaaangesteldbloem

スロイス「植物学」 引用植物学名	オランダ名	近縁種名	和名	備考	オーデマン 登録番号
<i>Eupatorium cannabinum</i> L.	Boeltjekkruid				
<i>Eupatorium japonicum</i>		ひよどりばな		薬局に供す	解熱剤 185
<i>Tussillago farfara</i> L.	Klein Hoefblad	ふきたんぽぽ		薬局に供す	186
<i>Aster tripolium</i> L.	Zee-Aster, Zuite	よめな など		薬局に供す	188
<i>Bellis perennis</i> L.	Daisy, Madeliefje	ひなぎく		薬局に供す	189
<i>Artemisia absinthium</i> L.	Bijvoet	にがよもぎ、アルセム		健胃薬	197
<i>Tanacetum vulgare</i> L.	Wormkruid	よもぎきく		薬草なり	198
<i>Matricaria chamomilla</i> L.	Kamille	カミール		薬草なり	201
<i>Arnica montana</i> L.	Valkruid, Wolverei	アルニカ		薬草なり	204
<i>Chrysanthemum senesio</i> L.	Kruyskruid,				
<i>C. leucanthemum</i> L.					202
<i>Anthemis arvensis</i> L.	Akkar-kamille				200
<i>Achillea millefolium</i> L.	Diuzend blad	ノコギリソウ			199
<i>Bidens tripartita</i> L.	Tandzaad				194
<i>Inula conyza</i> D. C.	Donderkruid				
<i>Inula salicina</i> L.	かせんそう			薬草	192

